



執  
中  
連

特 別  
A5  
6590  
18





弘化五戊申

甲斐  
相模

歳旦

四時極楽を遊ばせし年毎  
世に乃後長く暮らして行

雀うさぎ

子代乃云

琴  
胎

全



門松の連枝に二つと初らき 雨窓  
先男の物ねらうや 福壽子 藤林  
初春のや松の志く人 舞 竹 二  
ま乃葉もあはれふくむ 里 格  
法をうらうらとるる 始 里 仙  
らうの戸をぬく 目出さく 花 已  
五上ノラ

全 和詩 七言

中川と初り筆乃成  
命毛もくし指すまを  
業 成

命の専方乃山と久くと

花のま















採判よりと足居樂品 重如  
陰景残る昔と今と深きし 志乃  
人古氏よりそとわらう 蕉月  
更らむと花のゆきふれと 葉成  
り水と暖とねと蝶と里泉  
右の仙川

机と宵台

清き道やうらまを海す藤原橋 山許  
あふふ又あふふと冬か夏 梅何  
ふ身れ正しうらまを信の 素埃  
まじりや文と書しうま仕 一色

まじり道と例く傍もや下大根 柳の坊

茶喫

と一以信片遠ま乃志氣は秋  
流り成然う乃いけ文張り

嘆息のふり乃  
惠のやとけね  
儿胎

軸

影の心  
柳の心  
冬乃月  
古遊  
心



